

メディア情報を意識してみよう！



テレビCMでは



▲ 男性と女性が共に洗い物をしている様子に、「奥さん」「ご主人」という男性中心の表現ではなく、「パートナー」などと呼んでみては？

▲ 食器洗剤のテレビコマーシャルなぜ女性だけが、「素敵な奥さん」として出演する？

ビジネスシーンが描かれるとき



モヤモヤ



▲ 会議の司会者や参加者の半数は女性で表現されるとバランスが良い感じに

▲ 職場でのシーンは、なぜか男性社員ばかりで表現されていませんか？

雑誌などで職業が書かれるとき



モヤモヤ



▲ 性別に関わらず、「弁護士」「医師」という表現が適切ですね

▲ 「女性弁護士」「女医」と冠に女性を表現？ 「男性弁護士」「男医」なんて言わないのに

男らしさ？ 女らしさ？ 自分らしさ？

「男の子はブルー、女の子はピンク」
そんなイメージはどうやって生まれたのでしょうか？
私たちが思い込んでいる、男らしさ・女らしさは、
実はメディアによる影響が少なくありません。
多様性を認め合う現代社会で、
メディアとどのように向き合うべきか考えてみましょう。

